全国学力・学習状況調査の結果について

貝塚市立西小学校　校長　中村　彰男

晩秋の候、朝夕冷え込む季節になりました。平素は本校教育活動にご理解・協力をいただきありがとうございます。
本年度も、６年生を対象として「平成３０年度全国学力・学習状況調査」を実施し、９月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。
この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査です。今年度は、国語・算数・理科の３教科について行われました。測定されたものは学力の部分的なものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。
学校では、本校の児童の学力実態を絶対的評価（子どもたちが得意・不得意な領域や問題）と相対的評価（国・府の平均との比較）の両面からとらえて児童の学力実態の分析を試み、対象となった６年生をはじめ子どもたちに、よりきめ細やかな指導ができるよう取組みを進め、それぞれの学年の実態や課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１　教科に関する調査の分析　（「全国値」「府値」は全国と府の平均正答率を意味します。）

【国語】《概要》

◎国語Ａ（『主として知識』に関する問題）

・全体の正答率は府値と同じで、全国値より下位にある。
・「話す・聞く能力」と「読む能力」において全国値より上位にあるが、「書く能力」と「言語についての知識・理解・技能」においては全国値・府値より下位にある。
・「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」ことについては全国値・府値より上位にある。
・「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」ことについては、正答率が極めて低く、主語と述語をとらえて文を正しく書くことについては、課題がある。

◎国語Ｂ（『主として活用』に関する問題）

・全体の正答率は府値より上位にあり、全国値より下位にある。
・「国語への関心・意欲・態度」は全国値・府値より上位にあるが、「話す・聞く能力」は全国値・府値より下位にある。
・「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読む」においては全国値・府値より上位にある。
・「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」正答率が極めて低く、また、全国値・府値より下位にあるため、大きな課題であるととらえられる。
・「目的に応じて，複数の本や文章などを選んで読む」においては全国値・府値より下位にある。
・「目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書く」においては全国値・府値より上位にあるものの、正答率は低く、課題がある。

☆国語科における成果と今後の改善点について

○国語Ａについては無答率が若干高いものの、国語Ｂについては H28 年より２年続けて無答率は減少している。テストの時に、あきらめずに分かるところまで必ず書くように、日頃から指導している成果ではないかと考えている。これからも続けていくことで、書く意欲の向上につなげたい。
○市の「力だめしテスト」、過去問題の練習などで、テストの形式に慣れることができた。これからも続けていこうと考えている。
○普段からの漢字テストで正しく解答できていても、表し方の変わったテストに接すると、十分に点が取れないことがあり、単純な書き取りだけではなく、多様な形の問題に触れさせたい。
○複数の文章を読み、必要な情報を読み取っていく問題の正答率が、全国値・府値を大きく下回っている。目的をもって、複数の文章を読み、それを比較しながら読むような指導を工夫したい。
○授業の最初に「めあて」を持ち、最後に学習を「ふりかえる」ことで、目的意識を持ってスタートし、学習の最後でそれができたがどうか検証する学習形態が身につきつつある。さらに子どもたち一人ひとりの力を伸ばしていけるように取り組みを進めたい。

【算数】《概要》

◎算数Ａ（『主として知識』に関する問題）

・全体の正答率は府値および全国値を上回っている。
・「数と計算」「数量関係」において全国値・府値より上位にあるが、「量と測定」「図形」が下位にある。
・「１に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し，数直線上に表すことができる」は全国値・府値を大きく上回っている。
・「円周率の意味について理解している」（円周率を求める式として正しいものを選ぶ）については、全国値・府値より下位にあり、正答率としても低く、課題がある。
・「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる」についても、全国値・府値より下位にあり、課題がある。

◎算数Ｂ（『主として活用』に関する問題）

・全体の正答率は全国値・府値より下位にある。
・算数Ａと対照的に、「図形」において全国値・府値より若干上位にあるが、「数と計算」「数量関係」「量と測定」が下位にある。
・「図形の構成要素や性質を基に，集まった角の大きさの和が３６０°になっていることを記述できる」においては全国値・府値より上位にある。
・「示された情報を解釈し，条件に合う時間を求めることができる」「示された考え方を解釈し，ほかの数値の場合を表に整理し，条件に合う時間を判断することができる」「メモの情報とグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述できる」においては全国値・府値より下位にある。
・「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを，適切に判断することができる」においては全国値・府値より若干下位にあるとともに、正答率そののも低く、課題がある。

☆算数科における成果と今後の改善点について

○算数Ａ、Ｂとも無答率が減少している。特に算数Ａが大きく減少しており、基礎的な問題を解く力が全体的に向上している。「昼学」の時間を活用し、基礎学力の指導を集中して行った成果ではないかと考えている。
○また、普段のテストの時から、あきらめずに分かるところまで必ず書くように指導している。これからも一人ひとりを励ますことで、学習意欲の向上に努めたい。
○市の「力だめしテスト」、過去問題の練習などで、テストの形式に慣れることができた。これからも続けていこうと考えている。
○円周率はわかっていても、それを求める式を選ぶ問題の正答率が低かった。問い方が変わると答えられない場合もあるので、多様に考える力を伸ばすことで、様々な課題に対応できる力をつけたいと考えている。
○平成３２年度から完全実施される新学習指導要領では、算数科の領域が大きく変わる現在の「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の４領域から、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の４領域になる。このことを踏まえて、広い視野でグラフの読み取りや分析及び活用ができるように、取り組みを進めたいと考えている。

【理科】《概要》

◎理科（AB 区分なし）

・全体の正答率は府値より上位にあり、全国値より下位にある。
・「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」において全国値・府値より上位にあり、「観察・実験の技能」においては全国値・府値を大きく上回っている。しかし、「自然事象についての知識・理解」においては全国値・府値を大きく下回っている。
・「ろ過の適切な操作方法を身に付けている」「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる」においては全国値・府値より上位にある。
・「堆積作用について，科学的な言葉や概念を理解している」においては全国値・府値を大きく下回っている。
・「乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる」においては全国値・府値より下位にある。
・「より妥当な考えをつくりだすために，実験結果を基に分析して考察し，その内容を記述できる」「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し，その内容を記述できる」の正答率が極めて低く、課題がある。

☆理科における成果と今後の改善点について

○体験活動を大切にし、実験を多く行うようにした。また、植物の栽培や生物(メダカ）の飼育・観察なども積極的に行い、児童が直接触れる機会を多くした。
○理科好きな児童が多く、授業を進める中で、全体に広まり、より活発な授業が行われた。そのことでさらに理科を好きになる児童が増えたと思われる。
○日ごろから「書く」活動を積極的に行い、児童が文章で解答することに慣れるように努めた。
○過去問題や、市教委からのプリントを用いて、練習する機会を増やした。
○多くの項目で無答率が０％になっており、無答率は非常に低い。全国平均で最も正答率が低かった問題でも無答率は０％になっている。
○「関節」や「たい積」など理科の基本的な語句に解答できていない場合があるので、基本的な用語の習得に力を注ぎたい。
○授業で学んだ理科の原理・原則にとらわれてしまい、状況の変化に応じて柔軟に思考することに課題がある。原理・原則の定義にとどまらず、それがさらに変化していく場面もあることに触れさせるような授業を心がけたい。
○普段から実験結果を客観的に読み取るポイントを意識させて、記録を書かせるようにしたい。